

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏名	日置 久美子
審査委員	主査 琉球大学教授 屋 宏典
	副査 琉球大学教授 和田浩二
	副査 鹿児島大学教授 大塚 彰
	副査 琉球大学教授 高野 良
	副査 佐賀大学教授 永尾晃治
審査協力者	印
実施年月日	平成 27 年 7 月 30 日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。)	
<input checked="" type="radio"/> 口答 <input type="radio"/> 筆答	
<p>主査、副査及び審査協力者は、平成 27 年 7 月 30 日の公開審査会において学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が博士(農学)の学位を受けるに必要な十分の学力ならびに識見を有すると認めた。</p>	

学位申請者 氏名	日置 久美子
質問1：なぜ雌雄一緒に1つのケージで飼育しているのか？	
回答1：ブロイラー生産現場では雌雄一緒に飼育しているので、生産現場の環境をなるべく再現するために行った。また、これまでは雄のデータが殆どであったので、より実的なデータという意味合いで雌への影響も併せて評価した。	
質問2：雌のデータを取ったのであれば、雌雄の差についても評価できたのではないか？	
回答2：ご指摘のとおりです。検討させていただきます。	
質問3：麴給与により豚筋肉のTBARS値が低下しているのは、肉質に関与してくるのか？	
回答3：臭みがなくなるなど、肉質が向上するとされている。	
質問4：ブロイラーの体重増加がそれほど認められていないが、生産性が向上していると言っているのはなぜか？	
回答4：麴菌の摂取によって腸内の有機酸量が増加しており、それがエネルギー源となって成長を促進する可能性がある。また、麴菌の摂取によって腸内環境が向上するため、生産性の向上へと繋がると考えられる。	
質問5：ラットの実験では、お茶と黒麴それぞれの影響を理解するために、二元配置分散分析をおこなったほうが良いのではないか？	
質問5：本試験では黒麴によって発酵させた茶葉の影響を見たいのであって、黒麴自体の影響を見たいわけではない。従って、本試験では二元分散分析は不適だと判断するが、今後は、黒麴と茶葉の交互作用についても明らかにしていきたい。	
質問6：黒麴0.05%といったように非常に低い投与量で効果が認められているが、どのように投与量を決定したのか？	
回答6：過去の実験で、1%投与よりも0.01 - 0.05%投与の方が効果的であることを確認している。黒麴の投与量は多ければ良いものではなく、また黒麴量が多くなると摂食量が低下することも解っており、これらの成果に基づいて最適と思われる量を選択している。	
質問7：黒麴摂取によってブロイラーや豚の体重が増加しているが、ラットの場合はどうなのか？	
回答7：別の実験では、確かにラットの体重は増加していたが、それはおそらく筋肉量の増加によるものである。ブロイラーなどでは胸肉量の増大が確認されている。	
質問8：本実験におけるブロイラーの場合の体重増は基本的には脂肪量ではなく、筋肉量の増加と考えていいのか？	
回答8：そのとおりです。	
質問9：ラットの実験での食事脂肪含量は7%と低いようだが、高脂肪食にしなかった理由はなにか？	
回答9：普通食のレベルでの影響を評価したかったので、脂肪レベルは低い条件を採用した。高脂肪食条件であれば、麴茶の影響はより明確に出たかもしれない。	